

結核の最新情報

城山病院 李 雅弘先生

新潟県で起きた特別養護老人ホーム内での結核に関連した多数死亡例の事は新聞・テレビ等で発表されたので、ご記憶の方も多いと思います。その他にも”最近また結核がふえてきている”といったことを耳にしているかもしれません。では実際にはどうなのでしょう？

最近の発表では、結核にかかっている患者数は近年ほとんどわずかずつしか減少しておらず、逆に排菌者(他の人に感染させる恐れのある患者)は増加しつつあるとされています。これはわが国ばかりではなく、アメリカや西欧諸国でも同様傾向にあるようです。原因としては、第一に医療機関も医療を受けるみなさんも”結核は過去の疾患”と考え、結核に対する関心が薄れてしまったことが挙げられています。そしてその結果として結核患者さんの診断に長時間を要してしまうこと、また患者さんの周囲の人たちに村する検診が適切に行われていないこと、過去に感染した人たちの年齢が再発しやすい五十歳以上になっていること、なども挙げられています。そこで現在結核に対する治療法の見直しや、新しい検査法による正確かつ迅速な診断技術の導入、医療者に対する研修や啓蒙等が行われています。

その他に新潟の事例のような集団発生や結核の多い国からの外国人の流入、HIV(エイズウイルス)感染と結核の合併、医療従事者の患者さんからの感染なども問題となっています。